

年度	2024	授業コード	9424482
科目	66230 スポーツボランティア論		
担当教員	柴田 真裕		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	1.ボランティアの起源や内容について理解することができる。 2.スポーツボランティアの取り組みについて理解することができる。 3.グループワークを通じて、発表、討論する力が身につく。		
授業概要	・ ボランティアの種類について理解する。 ・ スポーツボランティアの必要性を理解する。 ・ スポーツボランティア種類と役割についての理解を深める。 ・ 「支える」側の立場に立って物事を考える。		
授業計画	第一回：オリエンテーション（授業の進め方と、評価方法について） 第二回：ボランティアとは（ボランティアの哲学・歴史） 第三回：生涯学習としてのボランティア 第四回：スポーツボランティアとは 第五回：スポーツ指導ボランティア 第六回：海外におけるスポーツボランティア 第七回：イベント運営に関わるボランティア①（世界大会） 第八回：イベント運営に関するボランティア②（市民大会） 第九回：障がい者スポーツにおけるボランティア 第十回：企業が行うスポーツボランティア 第十一回：グループワーク①（企画内容検討） 第十二回：グループワーク②（企画書の作成） 第十三回：グループワーク③（企画内容のppt作成） 第十四回：グループワーク④（企画発表会） 第十五回：授業の振り返りとまとめテスト		
授業方法	講義・ディスカッション・発表によって行う。 また、適宜動画も用いる。		
アクティブラーニングの視点	グループワークや、ディスカッションを行い、発表を行う		
授業外学習	・ 日頃からスポーツボランティアについて関心を持ち、新聞や雑誌などでスポーツボランティアに関する記事を読んでおく。 ・ またスポーツだけに限定せず、ボランティア活動に関しても情報を収集しておくこと		
教科書	特に指定なし。必要に応じてレジュメを配布します。		
参考書	二宮雅也 「スポーツボランティア読本」 悠光堂 2017		
評価方法	毎授業の参加態度（30%） グループワークでの成果物（30%） 最終授業の際に実施するまとめテスト（40%）		
既修条件			
実務経験のある教員による授業	NGOの理事として、海外でのスポーツイベントを実施した実務経験のある教員が担当する。		

年度	2024	授業コード	9424414
科目	41060 音楽		
担当教員	内海 由美子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	・世界の様々なジャンルの音楽に触れることにより、教養としての音楽的知識を深めることができる。 ・「音楽」を実践的、多角的にとらえて、楽しむことができる。		
授業概要	ジャンルにとらわれず、さまざまな角度から音楽を考察し、鑑賞することで、自分自身にとっての音楽を考える機会を持つことを基本とする。民族音楽に関しては、その音楽の生まれた地域性や文化との関連を探る。西洋音楽に関しては、音楽史を中心に、時代背景やその時代を代表する作曲家や代表曲を知り、教養として音楽的知識を深める。オーケストラやオペラ、ミュージカルについては、その成り立ちや特徴を知る。また本学の建学精神であるキリスト教の音楽として、聖歌・賛美歌の歌唱も行う。		
授業計画	第1回 世界の民族音楽（ケルトの音楽、フランス、イタリア、スイス、スペイン、ポルトガル） 第2回 世界の民族音楽（オーストリア、ドイツ、ハンガリー、北アンデス周辺） 第3回 世界の民族音楽（ブラジル、アメリカ合衆国） 第4回 世界の民族音楽（アフリカ、インドネシア、インド、ハワイ） 第5回 世界の民族音楽（中国、韓国、日本） 第6回 中世・バロック時代の音楽（バッハ・ヘンデル） 第7回 古典派の音楽（モーツァルト・サリエリ） 第8回 古典派の音楽（ベートヴェン・ハイドン） 第9回 ロマン派の音楽（シューベルト、ショパン） 第10回 ロマン派の音楽（リスト、メンデルスゾーン、シューマン） 第11回 ロマン派の音楽（ワーグナー、ブラームス） 第12回 ロマン派の音楽（チャイコフスキー）近代の音楽（ドビュッシー） 第13回 近代の音楽（ドヴォルザーク、ラヴェル）現代の音楽（ガーシュウィン、サティ、ケージ） 第14回 オペラ、オペレッタ、ミュージカル 第15回 ミュージカル鑑賞		
授業方法	講義と鑑賞を中心とするが、音楽の本質にふれるため、歌うなどの実技演習も行う。毎回授業の最後に、その日の内容に関するレポート（感想を含む）の提出を課す。		
アクティブラーニングの視点	身近にあふれている様々な音楽について、積極的に調べ、自分自身がどのような音楽に魅力を感じるか、また自分にとって音楽とはどのような存在がを知る。		
授業外学習	授業内で紹介する音楽について鑑賞する。		
教科書	授業内で適宜紹介する。		
参考書	授業内でプリントを配布するなど適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度40%、レポート課題60%で総合的に評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

年度	2024	授業コード	9424278
科目	68008 現代政治と経済		
担当教員	吉井 武史		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	社会人基礎力としての「政治」および「経済」に関する基礎的教養を習得する。		
授業概要	初頭・中等教育学習課程における「政治」「経済」に関する内容を抽出し、実践的教養を習得することを目的とする。		
授業計画	1 法と憲法 2 大日本帝国憲法 3 日本国憲法の制定 4 内閣 5 国会 6 裁判所 7 地方自治 8 防衛問題 9 日本の領土問題 10 アメリカ合衆国の政治 11 ヨーロッパ主要国の政治 12 国際連合 13 EU 14 経済学の歴史 15 第二次世界大戦後の国際経済体制 期末試験		
授業方法	講義と演習		
アクティブラーニングの視点	毎時間、インターネットを利用して課題の解答を見出す演習を実施する。		
授業外学習	新聞等を通じて、現在進行形の政治・経済の状況を把握する事を心がける必要がある。		
教科書	授業中に随時資料を配布、もしくはウェブクラスにアップする。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	期末試験70%、小テスト30%。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

年度	2024		授業コード	9424312
科目	68009 現代社会と科学技術			
担当教員	柴 恭史			
授業種別	週間授業		授業形態	講義
開講間隔	週1回		単位数	2
履修年次	1		学期	2024年度 後期
到達目標	本科目においては、現代社会において取り上げられることの多い科学に関する話題について、その基本的な内容を理解し、社会の問題意識を認識できるようになることを目標とする。 くわえて、そのための技能として、以下の能力を習得することを目標とする。 ①大学生に求められる科学的知見の検索・収集方法を理解し、自ら行うことができる。 ②それらの知見の適切な参照方法・引用のマナーを理解している。 ③収集した情報・知見をもとに、（他者と協働して）自らの意見をまとめ主張することができる。			
授業概要	本科目では、現在の科学において、特に社会的に話題になりやすいいくつかのテーマについて取り上げ、それらの基本的な知識と論点について解説する。 社会的に話題になりやすい問題とは、単に科学的な知識だけでは解決できない問題でもある。それらはときに倫理的な側面や経済的な側面から、（クローン技術のように）科学技術として実行できるか以上に人として実行してよいのかが問題となる。したがって、科学的な話題・ニュース等を理解するうえでは、単なる知識だけでなく、そうした社会の価値観等を理解しておくことも重要である。 この授業では、科学的知識を解説するだけでなく、上記のような価値観の問題まで含めてディスカッションを深めたい。 また、こうしたディスカッションを含め、大学生としての学習活動・研究活動を進めるにあたっては、適切に情報技術（IT）を活用しながら情報を収集し活用することが求められる。 本科目では、授業テーマとしての科学技術だけでなく、技能として科学技術を活用する力も学習していく。			
授業計画	第1回 オリエンテーション「科学と社会 科学的知識だけで社会問題は解決するか？」 第2回 論理的なディスカッションーディベートの手法 第3回 AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか（1） 第4回 AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか（2） 第5回 情報の検索の仕方を理解する（1）インターネットを用いた情報検索 第6回 情報の検索の仕方を理解する（2）図書館を用いた情報検索 第7回 情報の検索の仕方を理解する（3）文献の参照と引用 第8回 宇宙開発と関連技術 宇宙進出の意義と社会的課題（1） 第9回 宇宙開発と関連技術 宇宙進出の意義と社会的課題（2） 第10回 論理を構築する（1）論理的な考え方をする 第11回 論理を構築する（2）主張を文章化する 第12回 環境問題とエネルギー 持続可能な開発とは何か（1） 第13回 環境問題とエネルギー 持続可能な開発とは何か（2） 第14回 環境問題とエネルギー 持続可能な開発とは何か（3） 第15回 社会の中の科学 自己の学びとの関連			
授業方法	本科目では、科学技術に関する基本的な知識および情報活用に関する手法について講義を行うとともに、科学技術に関わる具体的なテーマについて、学んだ手法を活用しながらディベートを繰り返すことを通じて、学術的な議論に関するリテラシーを身につける。			
アクティブラーニングの視点	情報活用に関する講義では、実際に自らの手を動かして情報検索・収集を体験することにより、主体的に技能を習得する。 ディベート活動の中では、準備段階でグループワークを通じて、他の学生と意見交換し、対立するグループの反論も想定しながら主張を組み立てるとともに、本番のディベート時には対立グループへの具体的反論を行うとともに、他のグループのディベートを傍聴し、双方の意見を踏まえて判定を下す。			
授業外学習	授業だけではテーマに関する情報は十分ではないため、授業外においても積極的に情報収集を行ってほしい。とくに、ディベート回の前には、グループでの入念な準備を推奨する。 あわせて、日常的なニュースの中で関連する内容についてどのような話題があるのか、普段から意識しておくことが望ましい。			
教科書	授業内で適宜資料を配布する。			
参考書	必要に応じて適宜指示する。			

評価方法	授業全体でのワーク・ディスカッション・ディベートへの参加度60%、 期末レポート40%
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	

年度	2024		授業コード	9424448
科目	41135 心理学			
担当教員	永井 明子			
授業種別	週間	授業形態	講義	
開講間隔	週 1 回	単位数	2	
履修年次	1	学期	2024年度 後期	
到達目標	「出会い」と「かかわり」を通して、「これから」の大学生活や社会生活を有意義に生きるために必要な心構えや心理学の知識を身につけることで、 ①自分を振り返ることができるようになる。 ②学んだ知識や心構えを他者とのコミュニケーションに活用することができるようになる。			
授業概要	目に見えない「心」の仕組みを解き明かそうと、心理学という学問ではこれまでに様々な研究が行われてきた。この講義ではそのような研究を参考にして、自分自身の見えない「心」を見つめてみる。自己と向き合い、人とかかわり、社会との出会いを考えることで自分を再発見し、自分の未来を自分の力で切り開いていく。			
授業計画	1. オリエンテーションとグループ作り 2. パーソナリティをみる 3. 心のなりたち 4. 無意識のはたらき 5. 自己をみつめる 6. 自己をつかむ 7. 私の子ども時代 8. 対人関係をふりかえる 9. 対人態度を知る 10. 人とかかわり方 11. 私の友人関係 12. 社会とかかわりと帰属意識 13. 想像力と創造力 14. 職業選択 15. 自分の将来イメージ			
授業方法	演習形式で行い、毎回の授業内容についてグループ・ディスカッションやふり返りを行う。 第1回目の授業で、活動グループを作り、そのグループで15回の授業を受講していくので、必ず第1回目の授業に出席すること。			
アクティブラーニングの視点	対話を通して自分を知ることが授業の大きな目的になるため、事前に、教科書記載の心理テストを実施してくることが必須である。また授業中には自分の結果を振り返るだけではなく、この授業の為に編成された固定グループのメンバーとその振り返りをシェアすることになる。さらには自分と他のメンバーを比べる中で見えてきたものをミニレポートとして表出することも求められる。			
授業外学習	毎回、課題の内容を指示する。課題ができていない場合は授業に参加できない。			
教科書	川瀬正裕・松本真理子・丹治光浩著『これからを生きる心理学「出会い」と「かかわり」のワークブック』ナカニシヤ出版, 2008年			
参考書	授業中に適宜紹介する。			
評価方法	授業の取り組み姿勢を重視する。毎回の課題への取り組みや授業への積極的な参加がない場合はその回の得点は0点とする。 授業外学習40%・授業への参加度20%・ミニレポート（振り返り）40%			
既修条件	なし			
実務経験のある教員による授業				

年度	2024	授業コード	9424465
科目	66220 生涯スポーツ論		
担当教員	上田 真也		
授業種別	週間	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	・ 様々なスポーツ活動を通じて、自分の健康の維持・増進の方法について学ぶ。 ・ 運動の必要性について、体感する。 ・ 生涯にわたってスポーツを楽しむ意義について、理解を深める。		
授業概要	スポーツを通じて、性別、年齢を超えた“楽しみ”や“遊び”を感じることは重要なことである。生涯を通じて身体を動かすことの喜びや爽快感、達成感を味わえ、コミュニケーションづくりや心身のバランス等をもたらしてくれる。それが生涯スポーツの魅力といえる。本講義では、さまざまな運動やスポーツを通じ、生涯にわたって健康を維持・増進していくことの重要性を感じ取ってもらいたい。		
授業計画	第 1 回 本講義の目的、授業の進め方について 第 2 回 発育発達期の運動プログラム（1）（乳幼児） 第 3 回 発育発達期の運動プログラム（2）（小学校） 第 4 回 発育発達期の運動プログラム（3）（中学・高等学校） 第 5 回 社会とスポーツ（1） 第 6 回 社会とスポーツ（2） 第 7 回 中高年者とスポーツ（1） 第 8 回 中高年者とスポーツ（1） 第 9 回 女性とスポーツ（1） 第 1 0 回 女性とスポーツ（2） 第 1 1 回 障害者とスポーツ（1） 第 1 2 回 障害者とスポーツ（2） 第 1 3 回 介護予防と運動（1） 第 1 4 回 介護予防と運動（2） 第 1 5 回 生涯にわたる運動づくり		
授業方法	講義形式で行う。		
アクティブラーニングの視点	ICT機器を用いた情報収集を行うとともに、収集した情報についてのグループ討議を行う。		
授業外学習	予習・復習を行うこと。 また、生涯スポーツについて日頃から興味関心を持つ。		
教科書	適宜、資料を配布する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業態度...30% ミニレポート（毎時提出する。授業内容に対する理解度を評価する）...20% 課題レポート...50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			